

## 老後の野菜作り

理事 大貫廣美

小生の野菜作りはかれこれ 20 年近くになる。野菜作りに長けた義母の早世でその知識・技術を十分に受け継ぐことができず後悔しきりの畑作りであるが、連れ合いは幼少時からの経験により作物の育て具合に対する感覚は確か



で、小生のへばな野菜作りを指導よろしく手伝ってくれる。それでも自家で消費するには十分すぎるほどの季節に合った 20 種類以上の野菜を収穫することができている。

野菜作りは、土作りから収穫、そしてその後の養生と多くの手が掛かるためかなりの労力を必要とし、趣味としての野菜作りを行う老齢の小生には結構きつい仕事となっている。それでも畑作りをしていると長期の晴天や大量の降雨による作物への影響が気になり、似非農業人として毎日の天気予報チェックが日課となっている。ただ、出来が悪くとも収穫直後に食する野菜の味は格別で、“野菜ってこんなに美味かったか！”と感じることはよくある。土壌中の微量元素のバランスが味覚に影響するといわれているが・・・

最近、下水汚泥コンポストが少しずつホームセンターなどで売られるようになり、目にした時には使ってみている。まだ価格は他の堆肥に比べてちょっと割高であるが、ペレット化されたものは使い勝手もよく緩効性であり、数年使ううちに土質も好ましい状態に仕上がってきている。下水汚泥コンポストを施用した畑から収穫される作物は、種類にもよるが葉色、茎の柔らかさなど、特に葉菜類には効果的であると感じている。

近年、食菜類を育て上げる技術が進化し、野菜工場からの供給された葉菜類がスーパーマーケットに並ぶようになってきている。環境変化に影響される露地野菜の収量変動を補うことができるためよいことであるが、味覚の点からすれば、

敢えて野菜の種の持つ風味を抑えて野菜作りをしているとも言われ、野菜嫌いの吾人にはよいのかもしれないが、野菜本来の味わいを持つ畑作野菜にはまだまだ追いついていないのが課題であるとの声も聞く。風味の少ない野菜は、田舎育ちの小生には少々刺激が足りず、不満が残る。

漁業に目を向けると、2024 年の漁業・養殖業白書によれば世界の魚介類の養殖生産量は 2022 年に捕獲漁業量を上回ったとされる。しかし、魚介類の味わい・旨味はまだ天然物とは開きがある。

幼少の頃に教わった、小村に住む半農半漁に生きる人々は貧しい生活だと思っていたが、実は自然から与えられる美味なるものを食することのできる恵まれた生活だったのだと最近やっと理解したしだいである。

## 2025 年度活動報告

### 風間講師を囲む勉強会「下水道と東京湾 赤潮に関する評価」

基礎知識普及部会長 佐藤和明

昨年 10 月に研究集会「東京湾と下水道」を開催しましたが、研究集会の講師を勤められた風間眞理先生は、出席された東京都の水再生センター長さんからの「なぜ下水道の努力にもかかわらず、赤潮は変化しないのか？」との問いに窮してしまったことをずっと気にされておられました。そしてこれに応えるかたちで、本年 3 月に札幌で開催された水環境学会年会に「東京都内湾における赤潮の質的变化」の論文を発表され、赤潮の発生規模は確実に小さくなっており、これは下水処理場排水の窒素・リンの削減状況に対応している、とまとめられておられます。

この度、基礎知識普及部会では東京湾の水質問題に下水道はどう貢献できるかを改めて確認するため、風間先生を囲む勉強会を企画し、9 月 11 日(木)午後、三水コンサルタント会議室で開催しました。

風間先生の赤潮に関するご発表をもう少し補足しますと、赤潮規模、濃度の減少が見られるが、近年泳ぐ特性を持つ渦鞭毛

藻類による赤潮が増加しており、今後窒素、りん濃度が低下しても赤潮が発生し続ける可能性があり、削減した窒素、リンに相応する赤潮の評価方法を考えていく必要がある、とのことです。

さらに風間先生は、環境省総量削減委員会でも提示されている東京湾への負荷量内訳では、窒素の70%、リンの74%が下水道関連の負荷であり、下水道が東京湾水質改善の鍵となることを紹介されました。東京湾は大阪湾や伊勢湾に較べても、窒素、リン濃度は高く、湾中央には貧酸素水塊が現存していて、底泥からのリン回帰も相当量に登る。この貧酸素水塊は一時縮小したが、近年の水温上昇に伴いまた拡大している。この水温上昇は、温暖化による海水温上昇に加え沿岸域に立地する事業所排水にもよることが衛星画像から確認されている、と紹介されました。

そして、後半の1時間たっぷり、会場やオンラインからの様々な質問を戴き、風間先生に丁寧にお答えいただきました。



また、下水処理水の放流方法の工夫、高度処理とリン資源化のタイアップ等々、会員から多様な意見が出されました。今回ご紹介いただいた赤潮の規模、濃度の縮小が、現存する湾中央の貧酸素水塊の解消に結びついていくのか、下水道サイドは、環境部局を始め観光の人、漁業の人、一般の人も含め意見交換をして今後の下水道システムに反映していく、そしてその役割の一翼を水俱樂部も担う、ということも話に出ました。以上ご紹介させていただきます。風間先生有難うございました。

## 越谷市立大袋東小学校下水道教室

理事 押領司重昭

6月24日に大袋東小学校で出前授業として下水道教室を開催しました。4年生の社会科授業の一環として4年生2クラス73名を対象に1階の調理教室において実施しました。授業は、クラスごとに1回45分の授業を2回行いました。

内容は、座学（水の使われ方、下水のゆくえと下水処理の仕組み、微生物の種類）、紙芝居（クマムシくんと仲間たち）、体

験学習ではツマラン管の実験を行い、最後に環境を守るために水を汚さない生活の工夫についてみんなで考え授業のまとめを行いました。

今回の下水道教室への参加者は、NP021世紀水倶楽部から5名、水コン協関東支部から5名、彩の国下水道同好会（県・下水道公社OB）から6名、メタウォーター株式会社から2名の計18名でした。例年、埼玉県下水道公社からも参加していただき、顕微鏡観察などを行っていましたが、今年は、八潮市陥没事故に関する対応に追われており、参加見送りとなりました。また、子供たちに人気のあったクマムシくんとクマニャンコちゃんの着ぐるみも見送ることとなりました。

ツマラン管の実験では、グレードアップした下水管の模型を用い、トイレトペーパーとティッシュペーパーを別々のペットボトルの水の中に入れてよく振った後、実際に流して流れの違いを観察しました。子供たちは、ペットボトルを両手で持って夢中になって振っていました。また、両ペーパーの流れ具合の違いも実感していました。

今年は、例年と異なる内容でしたが、概ね好評を得た授業になったと感じました。



**徒然水草 其之拾 「IT 社会は危険がいっぱい」**

嫌気好気法師

スマホは便利だ。もはや電話はメイン機能ではなく、検索、予約、支払、各種手続き等、全てスマホ一台あれば事足りる。もはやスマホの無い生活は考えられないと言っても過言ではないだろう。

文明の利器スマホだがマイナス面もある。まずは歩きスマホの横行だ。駅の「歩きスマホは止めましょう」のアナウンスは効果無し。スマホ歩きは若者が多いが、これは、中高年はマナーが良いということではなく、中高年はスマホを見ながら歩くなど危なくてとてもできないのである。若者にはスマホを見ながら階段を駆け下りるという離れ業を行う者もいるが、中高年がこれをやると即転倒・骨折だろう。スマホ歩きの若者と雑踏でぶつかると、謝るところか凄じ目付きで睨みつけられる。スマホは自己中人間養成装置でもあるのだ。

危ないと言えば、詐欺メールの多さは驚きだ。大半はブロックされるが、すり抜けてくるものもある。使ってもいないカード会社や通販、ネット証券等からの本人情報確認メールが多い。国勢調査を騙るものもある。ご親切にも「あなたに二千万円差上げたい」というのもあった。詐欺メールには日本語が妙なものが多かったのだが、最近は結構まともな文章になっている。多分、生成AIを使っているのだろう。

以前、スマホに宅配便からのメッセージが入っていた。URLを開くと、突然、某銀行のサイトに移動し、「あなたの口座に不正アクセスがありました。至急、必要情報を入力して下さい」と赤い警告が出ている。これは大変だと思って、あわてて口座番号等を入力しようとして何か変だと気付いて止めた。ちょっと考えれば、そもそも宅配便のお知らせから、いきなり銀行サイトに飛ぶことがおかしいのだが、サイトが余りにも巧妙に出来ていたので危ういところだった。

騙されかけた経験をもうひとつ。ある時、国際会議で講演を依頼したい旨の英文メールが来た。テーマは循環経済で、会場はロンドンの高級ホテル、旅費は現地で支払ってくれるとのことだ。「水の循環利用について話せということだろう、オレも国際的になったものだ」と喜んで、承諾のメールを出そうとしたところで、何だか胸騒ぎがした。念のため、インチキサイトの検索サイトで確認したところ、何とこの国際会議が載っていた。まさに危機一髪だった。

遠路はるばるロンドンまで来て、資料やPCが入った重い荷物を引き摺って、ようやくたどり着いたホテルのフロント。そ

こで「当ホテルでは、そのような国際会議の予定はございません」と言われ、呆然自失で立ち尽くす自分、それを物陰から見て嘲笑う誰か・・・まったくIT社会は「あ！痛い」社会かも知れない。



ロンドンのホテルで途方に暮れる筆者

---

**編集幹事のあと整理**

---

- 佐藤部会長からの会員限定勉強会報告。前号の高橋理事からの報告に続き、勉強会シリーズ第二弾です。
- 村上嫌気法師からの其之拾。「ロンドンでの筆者」って？写真はクラシックで西洋的ですが。
- 会員だよりコーナーへの投稿を募集しています。投稿はいつでも受け付けます。直近の号に掲載します。投稿要領などは望月から毎回お出ししている原稿依頼メールをご覧ください。

編集幹事・望月